

第17回 昭和の森子ども観察会

春の元気な生き物発見！

後藤 菊子(千葉市)

日 時：2010年4月4日（日）9：30～12：30 天気：曇り

参加者：子ども11名、大人9名 計20名

担当指導員：木下順次、後藤菊子、佐野由輝、武田宏子、花島伸美、山下美佐子、山田益弘

今回は4月に入り暖かい春の天気を予想してテーマを決めたのだが、思いのほか気温が上がらず（10℃～11℃）。昆虫などにはあまり出会えなかつたが、2才～10才までの元気な子ども達と一緒に色々な生き物が観察できた。

体操をして少し体を暖かくした後、草原の朽木を剥がしてみると、クモやダンゴムシが出てきたのでルーペで観察… 寒さで動きは鈍いがもぞもぞ動く虫達に興味津々… そのうち草叢の中からニホンアマガエルが飛び出してきた。大騒ぎしてカップルーペに入れて手足やお腹など普段見えない所を観察…。

目が輝いてきた。さらに目が慣れてくるとツクシが群れているのが判った。淡い緑のもの、もう胞子を飛ばし始めているもの、一面に群れているツクシは何とも愛らしかつた。子ども達より父兄の方々のほうが感動していた。

滑り台の脇を下りると、ウラシマソウやアオキがあったので、植物には雌雄別々の株があるものもある事を説明、その違いと不思議に子ども達も付添いの父兄の方々もびっくりしていた。さらに木々の下にはドングリの芽だしを見付け、ここでは子ども達が大喜びだつた。

脇菖蒲田に出て、トウキョウサンショウウオの卵塊を初めて見て、その形に目を見張っていた。ヒキガエルのオタマジャクシも寒さで殆ど動いていなかつたが、その数の多さにびっくり！

カタクリは殆ど下向きで、花びらが美しく反っているのが見られなくて残念だったが、指導員のSさんが持参した手づくりの「ツクシのグラッセ」を頂いた。これは初めての食感で、皆で美味しく頂き、一息ついた。

調整池までの道ではウグイス・ヒヨドリ・シジュウカラ・カラスなど鳥の声を聴きわけ、夏のゲンジボタルの事などを話しながら調整池に向かつた。調整池ではあらかじめ採集しておいたオニヤンマのヤゴ・ヒキガエル・ウシガエルのオタマジャクシを観て触れて、大きさの違いやその触感に感動していた。寒くて思ったような生き物に出会えなかつたが、寒さのなかでも元気に生き物が活動している事が観察出来て満足して貰えた。

指導員の皆様をはじめ大勢の方々のご協力に感謝致します。ありがとうございました。

